夏に多い感染性胃腸炎

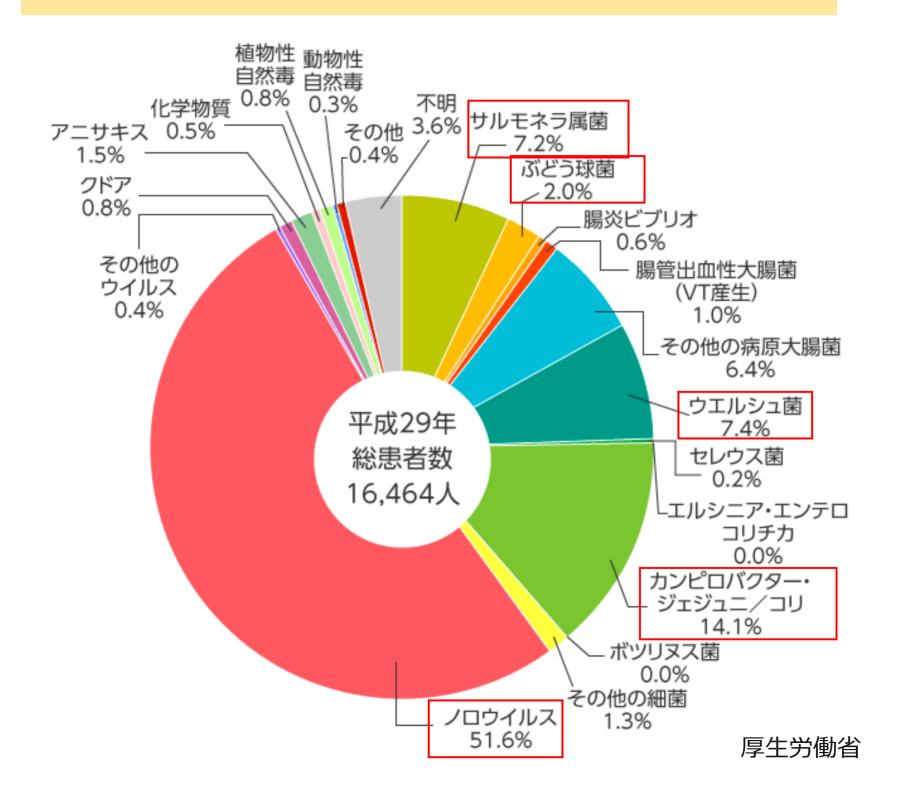
必ずしよう! ✓加熱処理 ✓手洗いと消毒

感染性腸炎とは?

- ・感染性腸炎とは細菌やウイルスによる嘔吐、下痢症状を呈する病気のことです。
- •冬にはウイルスであるロタやノロが主。
- •夏は細菌であるカンピロバクターやサルモネラ、腸炎ビブリオ、黄色ブドウ球菌などが多くなります。

	夏	冬
原因病原体	カンピロバクター菌 サルモネラ菌 黄色ブドウ球菌 病原性大腸菌 腸炎ビブリオ	ノロウイルスロタウイルス
症状	嘔吐・下痢・腹痛 血便	嘔吐・下痢・腹痛

なにが原因として多いの?



夏の感染性胃腸炎の特徴

- ・小児の腸炎で頻度が高いのはカンピロバクター属で、次いでサルモネラ菌が多い。
 - ・脱水や腸管外の合併症を併発しやすい。

	潜伏期間	原因食品
黄色ブドウ球菌	2 - 8 時間	ブドウ球菌により汚染され た食品 (手洗い不足、常温放置された食品)
ウェルシュ菌	6-18時間	作り置きのカレー、煮魚、 野菜煮込みなど
サルモネラ菌	8 時間 - 2 日	牛肉、豚肉、鶏肉
腸炎ビブリオ	1日以内	魚介類
エルシニア	3 - 7 日	豚肉
病原性大腸菌	4 - 8 日	牛肉、生レバー、馬刺し
カンピロバクター菌	2-10日	鶏肉、鶏卵、生レバー

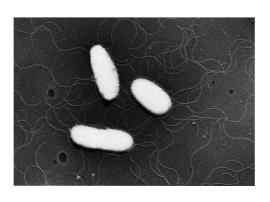
カンピロバクター菌

- ・小児の腸炎で最も頻度が高い。
- ・鶏肉、鶏卵などが原因となることが多い。
- ・主な症状は下痢,血便,腹痛,発熱である。
- 新生児や年少児では発熱がなく、血液を混入した下痢だけのことがある。
 - ・自然治癒が望めるため抗菌薬は必須ではない
- ・腸管外合併症として髄膜炎、虫垂炎、胆嚢炎、関節炎など生じる。
- ・ギラン・バレー症候群といわれる急速に進行する自然治癒する炎症性多発神経障害を来す。下肢からはじまる筋力低下および軽度の感覚消失する。この疾患の約30%にカンピロバクターが関係していると言われる。

写真. Campylobacter jejuni の電子顕微鏡像 (東京都健康安全セン ター)

サルモネラ菌

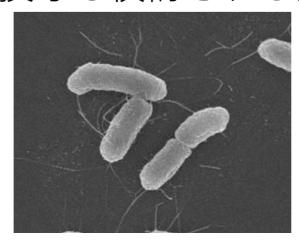
- ・小児の腸炎で頻度の高い食中毒菌。
- ・豚や牛、鳥の腸管内に常在しており、加熱不良 の食品では感染しやすい。
- ・症状はまず悪心および嘔吐で始まり、数時間後に腹痛および下痢を起こす。下痢は1日数回から十数回で、3~4日持続するが、1週間以上に及ぶこともある。
- ・小児では意識障害、痙攣および菌血症、高齢者では急性脱水症および菌血症を起こすなど重症化しやすく、回復も遅れる傾向となる。
- ・抗菌薬は軽症例では使用しないのが原則であるが、重症例で使用が必要な場合がある。



国立感染症研究所

病原性大腸炎

- ・ベロ毒素を産生する腸管出血性大腸菌による感染症である。
- ・全く症状のないものから軽い腹痛や下痢のみで終わるもの、さらには頻回の水様便、激しい腹痛、著しい血便とともに重篤な合併症を起こし、時には死に至るものまで様々。
- ・約6~7%に溶血性尿毒症症候群(HUS)、脳症などが発症する。
- ・下痢、腹痛、脱水に対しては補液など対症療法。 抗菌薬の使用には議論があるが、発症早期であれ ば抗菌薬の投与も検討される。



国立感染症研究所

出席停止期間

- ・病原性大腸菌感染症は第3種感染症に指定されているため感染の恐れがなくなると医師が認めるまでは出席停止となります。
- •ノロやロタなどの感染性腸炎は下痢、嘔吐 症状が軽快すれば登校可能。
- サルモネラ、カンピロバクター腸炎は下痢 が軽快すれば登校可能です。

家庭でできる 食中毒予防の 6 つのポイント









